

## 付録 27

### あなたの神は誰か？

多くの人は、この質問を聞くと憤慨する。「『あなたの神は誰か』とはどういう意味か？私の神はもろもろの天と地の創造主」と言うであろう。しかし、その多くの人は、自分が「神はもろもろの天と地の創造主である」と語っていても、それが単なる口先だけであり、実際には地獄へ向かう運命にあることを知って驚くであろう。(12:106)。

**あなたの神とは、あなたの心を最も多く占めているものである。**

あなたの神は、子どもかもしれない (7:190)。配偶者かもしれない (9:24)。仕事やビジネスかもしれない (18:35)。あるいは自我 (エゴ) かもしれない (25:43)。だからこそ、クルアーンの中で最も重要で、繰り返し命じられている戒めの一つは次の言葉なのである：

**信じる者たちよ、あなたがたは神を頻繁に思い出しなさい。昼も夜も神を賛美しなさい。**

**(33:41)**

この命令を実践するためには、神が何よりも私たちの心を占めるような習慣を築かなければならない。コーランは、魂を救うそのような習慣を確立する助けを与えてくれる。

1. 交信の祈り (サラート)：1日5回の礼拝を守る人は、起きている時間のかなりの割合で神を思い出すことになる。サラートは、祈りの数分間だけでなく、祈りを待つ時間を通して神を思い出させるのである。例えば午前11時に時計を見て、「もうすぐ正午の礼拝の時間だろうか」と考える行為そのものが神について考える理由になり、それに応じて報いが与えられるのである。(20:14)。

2. 食べる前に神を称念する：聖典6章121節は、食べる前に神の名を言及することを命じている。「神の名が言及されなかったものを食べてはならない。」

3. 神の意志ならば (イン・シャー・アッラー)：「『明日、私はこれを (あれを) するつもりだ』と言ってはならない。必ず『神が意志するならば、(イン・シャー・アッラー)』と付け加えなさい。もし忘れてしまったら、謝罪した上で『主が、次回はより良く導いてください』

ますように』と言いなさい」[18:24]。これは、相手が誰であっても実行すべき直接的な命令です。

4. 神からの授かりもの (マー・シャー・アッラー) : 私たちの愛するもの (子供、車、家など) に対して神の加護を求める際、18章39節では「マー・シャー・アッラー (これは神からの授かりもの)」と言うよう勧められています。

5. 昼も夜も神を賛美する: 食事の際、ただ動物のように食べるのではなく、神が創られた食べ物——その風味、神が与えてくれた五感による喜び、バナナやオレンジの完璧な包装 (皮)、神が創られた多様な海産物など——に思いを馳せ、その恵みを楽しみながら神を賛美しなければならない。美しい花や動物、夕日を見た時も、神を賛美すべきである。あらゆる機会を捉えて神を思い起こし、賛美しなければならない、そうすることで、神が私たちの神であられるために。

6. 一日の最初の言葉: 毎朝目覚めた瞬間、「慈愛深き、慈悲深い神の御名において。神のほかには神はいない」と言うことを習慣にきなさい。この良き習慣を身につければ、復活の時にも同じ言葉を口にすることになるであろう。